

国語科実践レポート

柿平 哲夫

個人テーマ ノート指導の工夫

これまでノート指導を十分にしていなかった。生徒は黒板をノートに写すだけで、その後の学習に使えるようなものにはなっていなかった。また授業の予習（宿題）をさせる際にも、ノートをどう使うかについて特別な指導をしてこなかったため、単なるメモの域を越えていないものばかりだった。そこで今年度は、少しでも役立つノート作りのための指導を目標に個人テーマを設定した。

1 使用するノート

工夫①一般の大学ノートを使わず、小学校高学年向けの国語用ノートを使用する。罫線の幅が広く、文字が書きやすい。書かれた字は大きいので、読みやすい。

2 授業内容の記録としてのノート

関連：本校の研究の方向『ねらいと課題』『学習活動』『まとめや振り返り』を明確にし…」

工夫②ノートを縦に3分割する。上段…日付、中段…課題など、下段…学習活動の記録など

*このように整理をすることで、学習した内容がつかみやすくなる。

3 予習（宿題）内容の記録としてのノート

関連：学力向上プラン「授業理解に役立つと実感できる宿題を工夫する。」

工夫③予習で何をどのように行うかを、「ノートの書き方」として具体例を示して指示する。

*指示が具体的なので、取り組みやすい。宿題の指示内容の難度がやや高めであっても、具体例をマニュアルとしながら、取り組んでいたようだ。

12月12日（水）の宿題

①クジャクヤマエをめぐる僕の気持ちの変化をとらえてみよう。

②クジャクヤマエのうわさを聞いた時の気持ち。

③クジャクヤマエを見て盗むまでの気持ち。

④クジャクヤマエが潰れてしまった時の気持ち。
(それそれ最低2つは書き抜きましょう。)

ノートの書き方

クジャクヤマエをめぐめる「僕」の気持ちの変化

①うわさを聞いた時
②見て盗むまで
③潰れてしまった時

↓
(「僕」の思いについて、自分で考えて書く)

2年生『走れメロス』のノート例

各自が学習内容を文章でまとめる。

本時の課題

授業の内容を記録

1年生『少年の日の思い出』の宿題例。

4 成果と課題

(1) 成果

これまで乱雑であったノートが一定程度整理されて書かれるようになってきた。

授業者も生徒も、授業の流れ（課題の提示→学習活動→まとめ）を意識するようになった。

(2) 課題

授業の中で行われる話し合いの活動や自分のひらめきなどをノートに記録する習慣が定着していない。これは生徒の意識の低さからではなく、そのための方法を会得させていないためである。さらにノート指導の工夫を凝らしていく必要がある。

社会科実践レポート

山下 史人

個人テーマ 指示・発問・説明の明確化を目指して

1 実施学年と実施日 3年生 6月27日(水) 第1限

2 単元名 2 効率と公正

3 目標

社会生活において「対立」が生じた場合、多様な考えをもつ人が社会集団の中で共に成り立ち、互いの利益が得られるよう、何らかの決定を行い、「合意」に至る努力がなされていることを理解している。また、その知識を身につけている。【知識・理解】

4 学力向上プランとの関係(カッコ内の数字は「いしかわ学びの指針」との対応)

- ・ 資料を根拠にして自分の考えをもち、相手に説明する。(→1)
- ・ 「効率」と「公正」の視点から良い点と問題点を話し合わせ、解決策をまとめさせる。(→2)

5 学習のながれ

導入 ① 前時を振り返り、合意を得て対立状況を解消するためには、みんなが納得できる解決策が必要であることを確認する。

展開 ② みんなが納得できるかどうかを判断する代表的な見方や考え方としての「効率」と「公正」について、資料4を各自3回読ませる。その後、説明し、理解させる。

③ 「学校でのトラブル」について、資料1・2をもとに、詳しい問題状況をつかませる。そのうえで、資料3の二つの意見について、「効率」と「公正」の視点から、それぞれのよい点と問題点をグループで話し合わせる。

④ 話し合った内容を発表させる。

⑤ 「効率」と「公正」の見方や考え方を使って、みんなが納得できそうな解決策を考えさせる。

⑥ 各自の解決策を持ち寄り、グループで意見交換を行わせ、グループ内で最もよいと考えた改善策を発表させる。

まとめ ⑦ 「学校のトラブル」について、「効率」と「公正」の視点から解決策をまとめさせる。

6 成果と課題 「指示・発問・説明の明確化を目指して」と関連して

成果 ・ 個々に適切な指示を行うことで、課題に対しての意識を焦点化させた。

・ 展開②で、具体物(チョコレート)を用いて説明した。生徒たちが興味を持って「効率」と「公正」について理解しようとしていた。また、まとめ⑦で生徒たちの学校生活上の課題(体育祭の団練習の場所割)に結び付けることで、理解を深めさせることができた。

・ 板書を視覚的にわかりやすくまとめることで、生徒に効果的な思考を促すことができた。

課題 ・ ホワイトボードやグランドを示した紙を用いて、図で説明させるとよかった。

・ 「効率」と「公正」という言葉の理解が不十分であった。対策として、①「効率」と「公正」のキーワードを使って書くよう指示すること、②ノートに言葉の意味を書くことがあげられる。

・ 不要な言葉の削除や、テンポやトーンを意識的に変えるなど、教師の言語活動の改善を引き続き行っていく必要がある。

個人テーマ 発問をしぼってリズムとテンポのある授業

I 取り組みの具体

- ① 教材研究の手段としての数学ノートの利用・・・生徒が書くノートを事前につくり、それをもとに発問・指示・板書を考える。
- ② 授業展開のパターン化・・・技能をねらう授業では、生徒が迷わず学習に取り組めるように、例示問題→練習問題→適用問題（→宿題）という流れをつくる。「板書をする」＝「発表をする」という約束をつくる。
- ③ 生徒と生徒の考えをつなぐ意図的な指名・・・指導者が正誤の判定を下さない。生徒の発言を確認し補足させあいながら学習内容を明確にしていく。

II 取り組みの実際

- ① 昨年度までも、授業ノートの作成を通して授業展開のあり方を考えてきた。しかし導入から考えて組み立てていくと、途中で行き詰まり時間切れとなることが多かった。そこで本年度は、生徒が書きあげるノートを事前につくり、それをゴールのひとつの形として授業の展開や発問・指示を考えた。「全員が同じノートに仕上げること」＝「指示が適切で徹底した」と仮説をたてて取り組んだ。
- ② 例示問題では、スモールステップ（1行ごとに発問や確認）で指導した。その際、行間を読む練習も取り入れた。全体の流れとしては、次の行に書くことや指導者が次に発する言葉を考えさせながら見通しを持つ練習をさせた。それらがスムーズにできた場合、練習問題や適用問題の時間でも、はやくできた生徒は発表練習の時間を確保することができた。
- ③ 一人の発言を2・3人の生徒にふり大卒の意見を集約する。指導者によるオウム返しをなくし、教室内で起こった出来事（発言・つぶやき・表情）を確認する。生徒のことで他の生徒の発言を補足しあう方向で学習内容をまとめ上げていく。

III 学力向上プランとの関係（カッコ内の数字は「いしかわ学びの指針」との対応）

- ②③→言語活動を充実させ、根拠や筋道を明確にした表現活動を指導する。（→1）

IV 成果と課題

成果 ①② 1時間ごとのゴールが可視化できたことで、時間配分がうまくできるようになり、適用問題をふくめてもほとんどの時間で終了チャイム前に区切りをつけることができた。授業整理会でも発問・指示が短くわかりやすいと評価していただいた。また、特に1学期は細かな指示を出してノート記入の方法を指導したため、1・2年生では行間を広くとったり、適度な大ききで図表を書いたりすることができる生徒が多くなった。③ 友達の発言を聞いておかなければならないため、ある程度の緊張感をもって授業に参加することにつながった。

課題 生徒の発言や表情に敏感に反応して生徒に返す指導に対する評価がむずかしい。感覚的に行っているところが多分にあり、③の追求を深めて理論付けができるように研修したい。

個人テーマ 科学的な思考を表現していく工夫

テーマに基づき

(1) 普段の授業の中で言語活動（事実と結果から自分の言葉で科学的に説明する）

(2) ワークシートにキーワードを組み入れ、考えをまとめて記述

などに取り組んだ。以下はその実践の中の一つである。

1 実施学年と実施日 3年生 11月27日（水）5限目

2 単元名 地球と宇宙

3 目標

- ・上弦の月が見えるときの太陽、月、地球の位置関係をとらえ、一日の中で上弦の月がどのように見えるのかを説明する。
- ・上弦の月が昇る、南中する、沈むのは、一日の中でいつ、どの方向になるのかを地球の自転と関連づけてとらえ、説明できる。

4 学力向上プランとの関係（カッコ内の数字は「いしかわ学びの指針」との対応）

- ・言語活動を充実させ、根拠や筋道を明確にした表現活動を指導する。（→1）
- ・班での活動を活用し、多面的・多角的に思考したり自分の考えを深めたりできるよう指導する。（→2）

5 学習の流れ

- ① 地球から見える月の形が日ごとによって変わって見えることを確認する。
- ② 満月の見え方を振り返る。
- ③ 本時の課題「上弦の月はどのように見えるか」を確認する。
- ④ 班ごとに、月、太陽、地球を使って、上弦の月が見える位置にセットする。
- ⑤ 地球儀を自転させることで、上弦の月が昇るとき、南中するとき、沈むときがいつ、どの方向、見える月の形（傾き）などを確かめる。（実験）
- ⑥ 実験結果を基に、ワークシートにまとめを書く。
- ⑦ 考えを発表する。 ⑧ 全体で検証し、まとめを確認する。 ⑨『上弦』の由来を聞く

6 成果と課題

小集団活動における言語活動について

成果 ・実験で確認したことをまとめるということと、ワークシートの工夫で概ねまとめられた。
・お互いに、見る位置や角度を変えながら工夫することで、課題を少しずつ解決していった。

課題 ・男子は身を乗り出し、顔をくっつけて角度を意識しながら観察することで理解を深め、発見できたが、女子の方は、離れて観察するため、的確な結果をなかなか得ることができなかった。そのため、まとめをする際にも男子に頼り、自分の考えや言葉でまとめきれなかった。
→ もっと顔を近づけさせたり、角度をつけさせたりする指示をしていれば的確に捉えることができ、自分でまとめるところまでできたのではないか。

今年度を振り返って 授業でわかったような錯覚を持ち、実は「理解できていない」「自分の言葉で科学的、論理的に説明できない」ことが次時の冒頭によく現れた。授業のまとめをおこなう際に、もう一歩押さえる工夫が要る。さらに、授業当日の復習課題を適切に与え定着させる手立て（授業と家庭学習をつなぐ、個に応じた策を講じて積み上げていくこと）が必要だと感じた。

美術科実践レポート

道浦 浩幸

個人テーマ：基礎基本の定着と充実感のもてる授業づくり

1. 実践学年と実施日 3年生 12月14日（金）2限目

2. 題材名 「新鮮な見方で」 一版多色木版

3. 目標

- ・作品の造形的なよさや美しさ，意図や表現の工夫などを感じ取り，自分の価値意識をもって味わっている。【鑑賞の能力】

4. 学習の流れ

①学習の内容をつかむ

作品から良さや工夫を見つけ、根拠が言える。

②1つ1つの作品を見て、考えを深める

数を限定して進める。

黒板に1つ貼り、順に手が挙がらない作品もいい所を見ていく。

2作目、3作目との違いを見つけよう。

作品の良さを見つけ、根拠を他の人に伝える。

③個別活動で自分の作品を見つめる

色彩を工夫し、違った感じの作風をつくる。

④授業の振り返りをする

他の生徒の進み具合を鑑賞する。

5. 成果と課題

成果

- ・根拠と理由の違いを明確にして鑑賞に入った。
- ・生徒の言葉で言った後、造形言語を使って言わせることもできる。

課題

- ・鑑賞の後、作風、画風を意識させてから活動に入ってもよい。
- ・どういう思いで作ったかを、作者に言ってもらい返してもよい。
- ・立って作業をする生徒が多くなるなると規律の問題でどういうものか。座ってもいい作品になる刷り方がある。

個人テーマ 運動の正しい行い方を意識させる授業の工夫

- 1 実施学年と実施日 3年生 1月25日(金) 第4限
- 2 単元名 マット運動 学習指導要領との関連 B 器械運動
- 3 目標 場(教材)づくりの資料や各種マット運動の資料を参考にして自分のできる技の習得を図る。
- 4 学力向上プランとの関係

保健体育でも抽出児を基軸とした授業の組み立てを工夫し、授業内容を十分に理解させるようにしている。また小集団活動を積極的に取り入れることで多面的・多角的に思考したり自分の考えを深めたりできるように指導している。

5 学習の流れ

導入

スムーズに展開に入れるように歩きからランニングをしたあと本日の単元に合った準備運動をさせ、十分に体をほぐす。

②種目に合った補強運動(床・マット上での各種運動)をさせる。

展開

③めあて1: 平たんなマットでできる技を繰り返したり組み合わせたりして楽しむ。

(例: 前転～開脚前転～後転～開脚後転 等)

④自分に合っためあてを決めさせる。 参考: 資料や用意した電子黒板(技の段階的習得を図る為のDVD)

⑤正しい姿勢で回転の方向・遅速・高低を考えさせて技の組み合わせ方やタイミングの取り方を工夫して練習させる。

⑥めあて2: 今できる技をさらにダイナミックにしたり、きれいにみせるための工夫をさせる。

⑦技のつなぎを滑らかにするための技の順番を考えて練習させる。

まとめ

⑧電子黒板で自分の実技の様子を見てふりかえり、新たな課題を見つけさせる。

6 成果と課題

成果

- ・あらかじめ壁に貼っておいた様々な技の資料や毎時間、電子黒板で各種目の段階的練習内容(中学生のマット運動CAI)を生徒が自由に見れるように設定しておいたのが良かった。
- ・倒立系の運動においての横補助の仕方を指導したり恐怖心を取り除くために毎時間、壁にセーフティーマットを立て、下にマットをひいて練習環境を整えることによって練習意欲をひきたてる事ができた。

課題

- ・展開に入った時に抽出児を見るのに他の生徒に目が十分に届かないときもあったので気をつけていきたい。
- ・力のない生徒が難しい技に挑戦しようとしている場面も見受けられたので自分の力を過信させないようにしていきたい。(安全対策)
- ・マット運動の苦手な生徒に対してもっと段階的な練習法をさせるよう場の設定をすれば良かった。

個人テーマ 「語順に気をつけたライティング」

1 指導にあたって

生徒にとって英語の最も大きな壁は語順である。「主語・動詞・補語／目的語」の語順定着を目指したライティングの指導に重点を置いた。

2 実践内容

(1) 書くことの到達目標を設定し、同じテーマで繰り返し英作文演習

例 クラスのなかで正確な語順で書くことができた人数の割合

テーマ（4文以上）	1回目の達成（実施日）	2回目	3回目
将来の夢	50% (7/5)	25% (11/13)	
夏休みの思い出	38% (10/5)	50% (10/9)	100% (10/10)
町の紹介	25% (12/3)	75% (12/4)	88% (12/6)

(2) 英作文のだるま方式

例 1年 Unit 6 英作文「お気に入りのキャラクターの紹介」

前課で be 動詞を使ったキャラクター紹介文を書いていたので、そこに一般動詞を使った紹介文をつけ加えさせた。新出文とくらべながら既習を振り返る機会にもなり、新たに書かせるよりも定着につながる。can や過去形の文も加えていき、1年の最後には10文程度の紹介文を文集にする予定である。

(3) 語順ノートを活用。

テストでまちがった文や気本文を書かせる際に、上部に「だれが する・です だれ 何 どこ いつ」と意味順が書いてあるノートを使い、その下に英語を書かせた。「だれが する～」は合言葉として繰り返し声に出させている。

(4) 語順カードの掲示や教科書での語順確認

教室後に掲示していた語順カードを黒板上に掲示し、英作文の際に確認させるようにしている。教科書本文音読後、主語や動詞にマークさせ、語順への注意をうながした。

3 成果と課題

- ・時間をおいて同じテーマで書かせたことによって英作文の正答率は着実に高まったが、数ヶ月以上おいて書かせると正答率が下がる。期間をおいて再確認する必要がある。
- ・教科書本文の主語や動詞はほぼ正確に判別できるようになった。自作文の語順ミスは難解な日本語を考える際に特に多いので、英語の「主語」「動詞」にあてはまる日本語で書きたいことを考えるよう指導していきたい。
- ・自分以外の英作文をチェックさせる機会が少なかった。他の語順ミスに気づく活動を増やしたい。